

心 動 不 動

平成 23 年 9 月
第 25 号
発行 普照院



今回は、以前書いた「彼岸」について、もう少し掘り下げてご説明したいと思います。さて彼岸とは、正確には「到彼岸」と書き「彼方の岸边へ渡る」という意味です。では、「彼方の岸とはどこ？」と言うことになるとは思いますが、それは「極楽浄土」のことです。

上に絵を掲載しましたが、この絵は「二河白道（にがびやくどう）図」と言ひまして、「我々の住む現世では釈迦如来の教えに帰依し、死後は阿弥陀仏を頼みとせよ。（善導大師・観経疏）」という、時宗など浄土系宗派の教えを説明する際によく使用されるものです。画面左上が極楽浄土（彼岸）にあたり、亡くなった方（河の真ん中で手をあげている白装束の人）をお待ち下さっているのが『阿弥陀如来』、右下が我々の住む現世（娑婆世界）で、白装束の方を見守って下さっているのが娑婆世界の教主『釈迦如来』です。我々人間は、常に憎しみや怒り（火の河）・貧欲（水の河）などにまどわされて生きていますが、亡くなった時にはこの絵のように必ず白い道（橋）の先で阿弥陀如来が我々をお待ちになっておられ、その後ろからは仏教を開かれたお釈迦様が現世より後押しして下さっているのですよ、ということがこの絵の中で説かれています。ちなみにお葬式において我々僧侶は、お釈迦様の弟子（お釈迦様の代わり）として、故人を浄土へお送りさせていただいています。

ですからこの彼岸という時期はお盆と違い、いずれ誰もが行く西の彼方の極楽浄土を、真西に沈む夕陽を見ながら特に思い感じる事が出来る時期でもあるのです。今回は限られた紙面の中うまくご説明できない部分が多数ありましたが、是非西方極楽浄土におられるご先祖様に思いを込め、また皆様がこの現世で生かさせていただいていることを感謝しながら、お念仏をお称え下さればと思います。

◆ 浄土宗総本山知恩院大遠忌法要参拝のご案内

来月10月に「浄土宗開祖法然上人800年大遠忌・時宗法主御親修法座」が、下記日程で厳修されます。檀信徒の皆様には、是非ご参拝いただきたく再度ご案内申し上げます。

日 時 平成23年10月20日(木) 10時 法要開始
場 所 浄土宗総本山知恩院 御影堂 (京都市東山区林下町400)

*知恩院へ参拝する際には、自家用車などのご利用は極力さけていただき、公共交通機関(バスは避けた方が無難です)をご利用下さい。また時間に余裕をもってお越し下さい。

なお住職は法要に参加するため、当日ご案内等ができません。申し訳ございませんが宜しくお願い致します。

法音寺19世良憲和尚(故井上住職)七回忌法要のお知らせ

本年は平成17年まで普照院の兼務住職としてお世話になっておりました、故井上住職の七回忌にあたります。故人様にお世話になった方も多数おられると思いますが、法音寺の檀信徒様の参拝を優先させていただき、法要日時の詳細のご案内は控えさせていただきます。現在の法音寺は、故井上住職の奥さまが跡を継ぎ立派にお寺を護持され、またお子さん達も大きくなられ、これからの寺院発展・宗門護持の為に努力されておられるそうです。

合掌

*井上良憲住職は、平成10年から17年までの8年間、当寺院の住職を兼務していただいた方です。ご自坊である法音寺で職務中、脳溢血にてお亡くなりになりました。行年56歳。在職中は当寺院復興の為に多大なるご尽力をいただきました。

〔編集後記〕

この寺報が届くころに、私は宮城県石巻市及び女川町に向かっていると思います。東日本大震災犠牲者の慰霊供養念仏行脚(あんぎゃ)を、浄土宗並びに時宗青年僧有志一同にてお勤めするためです。念仏行脚とは、歩きながらひたすらお念仏をお称えする供養で、毎年1月24日に京都でも法然上人のお供養の為にこの念仏行脚を勤修しています。今回は被災地にて同じ追悼行脚を行なうことになりましたので、皆様のお気持ちもお届けできるように、震災・津波被害でお亡くなりになった方々をしっかりと供養して参りたいと思います。

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787 ホームページ <http://fusyoin.com/>

